

議会だより

かみやま



下分七夕まつり、準備の1コマ

第3号

2009.11.13

9月定例会

発行／神山町議会 〒771-3395 徳島県名西郡神山町神領字本野間 100
tel. 088-676-1511(IP 2002) fax. 088-676-1100

9月定例会

神山町議会

9月定例会は15日から25日まで11日間の会期で開催しました。

提出議案は、専決補正予算1件、補正予算5件、条例3件、その他3件、人事案件3件、決算認定6件、報告2件、議会からの発議案3件計26議案を審議し、いずれも原案どおり可決、認定、同意しました。

一般質問では5議員が登壇し、(5～7ページに掲載)それぞれ町の考えを質問しました。



9月補正予算

9月補正予算

一般会計専決補正予算、一般会計補正予算並びに三特別会計補正予算が提案され、総額で2億2087万円が追加されました。

一般会計の専決補正予算は、8月の集中豪雨による災害関連の補正で一般会計は主に子育て応援特別手当、ホテル四季の里空調設備工事、林道開設工事、小中学耐震改修設計委託料で、国民健康保険特別会計では保険者療養給付費で、簡易水道事業特別会計は、県道改良工事に伴う配水管布設替工事となっています。

一般会計専決補正	38億8,832万円 (1,282万円)
一般会計	39億9,815万円 (1億983万円)
国民健康保険特別会計	11億1,795万円 (6,261万円)
簡易水道事業特別会計	1億5,241万円 (1,300万円)
介護保険特別会計	9億8,747万円 (2,171万円)
後期高齢者医療特別会計	1億980万円 (90万円)

※上段は予算総額、()内は9月補正額

主な内容

- 専決補正予算は、8月の集中豪雨による災害関係の予算です。
- 本庁空調設備改修工事 900万円
- 高齢者住宅改修事業 120万円
- 子育て応援特別手当 252万円
- 林道開設工事 2,700万円
- ホテル四季の里空調設備工事 1,450万円
- 小中学耐震改修設計委託料 3,050万円
- 県道改良工事に伴う配水管布設替工事 1,112万円

行政等報告

衆議院総選挙において、民主党を中心に新たな連立政権が誕生し、官僚主導から政治家主導に変えるということで、国家戦略局、行政刷新会議、また社民党、国民新党との基本政策、閣僚委員会等々の設置、政策の決定システムを大きく変えるとのことである。子ども手当、高速道路の無料化等の財源として、道路を中心とする公共事業の削減、ガソリン税などの暫定税率を廃止、二〇〇九年度の補正の見直し凍結といったことがいわれている。特に道路整備の遅れている本県町にとり大きな影響が懸念される。二十二年三月が期限の過疎地域自立促進法、中山間地域等直接支払制度のその後の行方がどうなるのか、後期高齢者医療制度はどのようなのか、一括交付金制度の内容、あるいは農業者戸別所得保障制度の詳細はどうかといった点、具体的姿が明確にされていない状況で、不安感が増している。

町として、いち早い情報の入手に努めると共に、町村会、町村議長会と共に、地方六団体と一致団結しながら、あらゆる機会を通じて地方の立場を主張し、基礎自治体としての

諸報告

どのような状況下にあっても自らの取り組みを着実に進めていきたい。

台風九号による時間雨量一〇〇ミリという大雨により五反地地区を中心に床上、床下浸水し、農作物や道路、河川等でも多くの被害が発生した。防災体制について、今回の災害対応を踏まえ、危機管理体制を再点検し、関係機関と連携を図りながら今後も進めたい。

新型インフルエンザの対応については、国内で患者が増え続けており、町内においても四名の感染者が確認された。今後大流行が懸念されており、社会全体で感染拡大防止が求められる。行政はもとより、町民一人ひとりが正しい知識を持ち、適切に対応、行動が肝要と考えられ、引き続き情報に注意し、冷静な対応を願いたい。

このほか町内小中学校の耐震改修工事、神山町養護老人ホーム等の指定管理、町商工会商品券の補助金、耕作放棄地再生利用推進交付金、すだちの販売対策、地域グリーンニューデール基金事業、定額給付金の給付状況等について、報告があった。

●平成二十一年七、八月分の例月出納検査について

監査委員から一般会計及び特別会計に属する出納状況を出納機関の諸帳簿、指定金融機関提出の収支日計表、証憑書類と照合した結果、過誤のないことを確認したことの報告があった。

●健全化判断比率報告について

健全化判断比率及びその算定となる事項を記載した書類は、適正に作成されており、平成二十年度の普通会計における実質赤字比率は算出されず、良好である。旨の監査委員の意見書を付して報告があった。

●資金不足比率報告について

簡易水道会計の資金不足比率及びその算定となる事項を記載した書類は、適正に作成されており、平成二十年度における資金不足比率は算出されず、良好である。旨の監査委員の意見書を付して報告があった。

●議員派遣について

徳島県東四国横断自動車道建設促進期成同盟会平成二十一年度総会ほか一五件について報告があった。

●議員研修

九月二十四日、役場委員会室にお

いて、県教育委員会教職員課主幹木津正憲氏を講師に招き、少子化に伴う小・中学校運営と問題点について、研修会を行った。

条例等

●特別職の職員等の報酬、旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正について

平成二十一年度から二十二年度にかけて、第四次神山町総合計画を策定する総合計画審議会委員に対し、報酬等の規定を定めるもので、月額六、〇〇〇円と定めました。



●神山町税条例の一部改正について

鉱産税に関する部分についての削除と町民税、固定資産税の納期の見直し、及び町民税、固定資産税、軽自動車税の納期限の見直しを行うものです。(次の表)

区分	旧	新
	納期	納期
町民税	第1期6月1日～同月25日まで 第2期8月1日～同月25日まで 第3期10月1日～同月25日まで	第1期6月1日～6月30日まで 第2期8月1日～8月31日まで 第3期11月1日～11月30日まで 第4期2月1日～2月末日まで
固定資産税	第1期5月1日～同月25日まで 第2期7月1日～同月25日まで 第3期9月1日～同月25日まで	第1期5月1日～5月31日まで 第2期7月1日～7月31日まで 第3期10月1日～10月31日まで 第4期1月1日～1月31日まで
軽自動車税	5月1日～同月25日まで	5月1日～5月31日まで

● 神山町国民健康保険税条例の一部改正について

緊急の少子化対策として出産による経済的負担を軽減し、安心して出産できるようにするため、平成二十一年十月一日から平成二十三年三月三十一日までの間に出産した時に支給する出産育児一時金を暫定措置として従来の金額三五万円に四万円を加算し三九万円とするものです。

● 財産の取得について

住宅用火災警報器五、二〇〇個の取得で、平成十六年に消防法が改正され、住宅火災による被害を軽減するため、すべての住宅に平成二十三年五月三十一日までに住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことにより、地域活性化経済危機対策臨時交付金事業により、町内の世帯に対応するものです。

● 指定管理者の指定について

神山町養護老人ホーム、神山町デイスサービスセンター、神山町ふれあいゲートボール場の指定管理者を指定するものです。

反対の討論がありました。起立採決し、賛成者多数により可決しました。

指定管理者となる団体等

名西郡石井町石井字城ノ内五六三

番地

社会福祉法人有誠福祉会

理事長 手束直胤

指定期間

平成二十二年四月一日から

// 二十五年三月三十一日まで

● 指定管理者の指定について

神山町農村環境改善センター、神山町民総合運動場、神山町立神領公民館、神山町民体育館の指定管理者を指定するものです。

指定管理者となる団体等

名西郡神山町

神領字中津一〇六番地

特定非営利活動法人グリーンバレー

理事長 大南信也

指定期間

平成二十二年四月一日から

平成二十五年三月三十一日まで

人事案件

● 教育委員会委員の任命について (同意)

神山町阿野字五反地三六五番地一

阿部 正氏

● 神山町固定資産評価審査委員会委員の選任について (同意)

神山町下分字中稲原一二五番地

西田 兼敏 氏

● 人権擁護委員候補者の推薦について (同意)

神山町下分字松ノ本七五番地二

栗飯原 哲行 氏

議員発議案

● 地方の実情に即した政権運営を求める意見書

新政権では、国と地方の協議の場を法制化しているが、新たな制度を立ち上げるに当たっては、町民生活の安定性を損なうことがないよう、住民の最も身近な立場にある市町村に対し、早期に情報提供を行うとともに、地方の意見を十分反映するよう求めるものです。国では、これまで実施されてきた経済危機対策の継続性に十分配慮し、地方経済、地方財政に混乱を招くことのないよう強く要請するものです。

● 議員派遣について

阿北環境整備組合議会第一回臨時会への出席のほか四件について、議員を派遣することに決定しました。

● 委員会の閉会中の継続調査について

各常任委員会、特別委員会における閉会中においても引き続き調査を行うと決定したものです。

追跡レポート

あの質問は
どうなったの？



景観対策プレミアム商品券の発行について

問 町民、町内商店が共に活かせるプレミアム、おまけ付き商品券の発行を今後、町単独として進める計画はあるのか。

答 町商工会と共に実施することが基本と考えている。

その後の状況

本年九月定例議会において「町商工会商品券補助金」として予算一〇〇万円上程承認された。

これにより、町商工会では本年十月二十一日から二十%おまけ付商品券の発売を始めた。

発行総額は六〇〇万円、その内一〇〇万円が町補助金。

一般質問



西崎 夫員
西 哲 議

問

現業職員の配置が多かった町施設が次々と指定管理移行となり、老人ホーム、デイサービスセンター等の来年度から指定管理が実施される。他にも環境センターや町施設や機関でも指定管理が推進される計画がある中で、今後の現業職員配転の今後の基本的な方針について。

答

来年度指定管理移行する老人ホームでは現業職員六名、デイサービスセンター三名計九名が配置されている。町全体では現業職員二十八名、臨時職員が二十五名いる。その中でも資格を持たなければならぬ部署の職員もいる。

来年度退職予定者は現業職員三名、行政職が四名と計七名である。基本的に資格を有する部署の臨時職員を

減らすことは出来ないが臨時職員を配置している部署に指定管理により配転の必要が生じた現業職員を配転する方針である。

問

行革の名目で町職員数が減り、縦割行政がより進行する現状で各々の職員が担当する業務の課題、その対応策、将来展望等々の検証を各課を横断して把握と掌握可能な業務担当を総務課内に新設し、必要に応じて町広報等を通して各々の課題を町民と共有出来る機能を構築しては。

答

現在のところ職員数の推移は非常に少なくなっており、縦割行政がより深刻化しています。特に県からの事務事業の移管等々受けることにより職員数は減るが仕事量事務事業は増えている現状にあるかと思う。その様な厳しい状況の中で更に厳しい現実を如何に把握し課題等に対応していくかは難しいものがあると思うが、町役場は住民福祉の向上が原点でありますので、課題にどれだけ一人一人が対応していけるか、一人一人が実力を養っていくかという事が大事かと思う。それを前提に総務課内にこれらを課長等の会だけでなく様々な課題

を共有出来るようにそういう担当についても検討してみたい。課長等の会だけでは指示事項だけでもなかなか下へ下へと伝わりにくいのが現状なので、課長補佐級係長といったところにも様々な課題が共有出来る方策について検討してみたいと考えている。



細井 富員
細 成 議

問

八月十日の集中豪雨による被害状況について

八月十日に神山町を襲った集中豪雨により床下・床上浸水など、町内に多くの被害をもたらしました。罹災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

いち早く、地域の消防団など被災現場での奉仕活動に深く感謝する。

この度の被害状況を項目別に示して、県及び町の予算で復旧出来るのは何箇所あるか。また、災害見舞金の支給条件及び件数と金額はどの位あるか。現在設置されている雨量計・水位計の場所はどこにあるか説

明を求めます。

あわせて、災害を最小限に防ぐ為、雨量計・水位計の増設を関係省庁へ要請するよう求めます。

答

県の災害箇所、道路四箇所、河川十七箇所、砂防設備二箇所被害総額約三億二、七〇四万七、〇〇〇円。町公共土木施設箇所、町道二十箇所、河川十箇所、単独災害箇所約五十箇所被害額約九、八三七万九、〇〇〇円。農地農業用施設災害、農地十二箇所、施設排水溝等二箇所。町林道災害箇所、五路線の六箇所約五、六九七万円。単独災害の河川五箇所、まだ調査中を含め概数で四億八、二三九万六、〇〇〇円と想定される。

災害見舞金は条例に基づき支給し、床上浸水一九戸に対し、一戸当たり五万円支給、総額九五万円支給している。

また、社会福祉協議会から見舞金一万円、徳島県から一人に対し毛布一枚、日本赤十字社から一人に対し毛布一枚、日用品のセットを見舞金として渡されている。

雨量計、水位計の設置数と場所は、雨量計は寄井川北、阿野字広野、神領字石堂、旭丸、阿野字福原、上分公民館、町役場の七箇所に設置して

いる。

水位計は、寄井北橋、神山東中学校の吊り橋の二箇所設置している。増設の件については、関係省庁等と実態調査し必要とするならば要望したい。

今後の対策として、地域あげて自主防災組織の立ち上げ等により防災意識の高揚を図りたい。

中州のバラス堆積土の除去については多くの問題があるので徳島県と十分協議し問題解決に取り組みたい。

問

国道一九二号線の道路案内標識について

国道一九二号線の元町交差点と佐古二番町交差点の道路案内標識が神山町へは国道四三三八号線を利用するように指示しています。

町内へはこの表示で間違いでないが、広野・阿川及び鬼籠野地区の一部は案内標識に従って走行すれば遠回りになる。また、国道四三三八号線の徳島市中心部が複雑なため、道に不慣れたドライバーが困惑しています。

広野・阿川及び鬼籠野地区の一部への案内標識の変更を国土交通省へ申し込む意志を問いたい。

答

国道一九二号線の案内標識の件については、幾たびか申し込みの経緯はある。しかし、国交省は変更の意思はないとの考えである。国道四三三八号線の鬼籠野字東分の神山鮎喰線の合流地点については、国交省関係では、大字を載せないという規定になっている。



問

新政権になって国との連携をどのように対応していくのか。

第四十五回衆議院選において、有権者は自民、公明両党による現政権の継続ではなく、民主党を軸にした新政権を選択されたところであります。本町においては、地元県議をはじめ、町長、我々町議一致団結のもと徳島三区自民党、後藤田正純氏を推薦し、大差を付け大勝したところであります。日本の政治の主役が交代することによって、どんな新しい「政治のかたち」が生まれるのか。大いに期待し注目するところである。

私は今回の選挙は、政権与党の政治家には住民の目線にたった「国民のための国民の政治」がされてなかったのではないかと、私自身そのように評価をしている。そこで、本町における財政状況であります「財政的に厳しい」「財源がない」このようなことは十分承知をしている。確かに、本年度一般会計予算を見ても、歳入に占める自主財源は、一億三、四八二万三、〇〇〇円、地方交付税一五億九、〇七五万八、〇〇〇円と依存財源に頼るしか他にないけであり、歳出予算を見ても、義務的経費は一九億七、四四七万四、〇〇〇円で五十七・五%を占めており、自主財源に対しても八億三、九六六万一、〇〇〇円不足していることになる。

いよいよ民主党新政権がスタートしたわけであるが、今後においても、更にこの財政的厳しさは当分続くであろうと思うし、国と本町における「パイプ」も非常に厳しさを増すと思うが、本町における「過疎」「高齢化」「少子化」そして「教育」問題など難問は山積していることは言うまでもないことであるが、これらを一刻も早く解決するためには、まず、なをにおいても財源の確保が一番であろうと思うが、そこで、財源確保

答

今後本町にとって財源確保が一層厳しくなることが考えられる。一括交付金制度等について、積算要件の人口だけでなく、C02削減二十五%減に関連する森林面積を要件に入れるなど、政権与党、野党問わず、県選出代議士をパイプとし議員各位の協力をいただき、より強く要望等々していきたいと考えている。



問

鮎喰川の洪水対策について八月九日、十日の豪雨により阿野字五反地地区の家屋二十六戸が床上、床下浸水の被害にあい、日

常生活に支障をきたしたが、これまでに幾度となく同じ様な被害にあっているが、町は県に対しどのように対応するのか。

答

今回の豪雨被害にあわれた方に心よりお見舞い申し上げます。

十日早朝阿野字福原では時間雨量一〇〇mmの集中豪雨であり予想外の出水で、地区住民は家財道具は搬出できない程の状態であったとの事でありました。

鮎喰川中洲に堆積した砂の影響と同地区で鬼籠野谷川、大地谷川、大門谷の三河線の合流点でもあり、特



異な地点でもありません。現在県に対し砂の撤去をふまえ、河川調査等による浸水予防対策を要望しているところです（九月末には測量調査に入っていた）。



木元 元幸 議員

問

権限委譲について
岡山県新見市では、県道の

維持補修について移譲されて、交付税が増額されていた例もあるが。

答

徳島県では移譲されていない。区間設置する事によっては、可能性があるのかなと思う。要望をしたい。

問

車座座談会について
神領長寿会十三名が、行政

全般について開催。NPOさくら会が、二十五名の参加で、さくらと観光客の受け入れについて、活発な議論がされた。

問

生活への不安を感じている。要望がなくとも、現場へ出

答

かける必要があるのではないかと。福祉向上のために、今、求められている問題は何か、前向きに考えていきたい。

問

地域助成について
現在、まほろば事業が展開

されたり、チャレンジ推進団体に助成されているが、どちらかと云えば、にぎわいづくりである。山林の荒廃、生活道の維持補修、管理、除草に住民税の一部を助成できないか。

答

住民生活と密着度の高い事業展開を探していきたい。

使い勝手のよい助成制度を考える必要がある。人材の養成に努めたい。

議会用語ワンポイント解説



繰越明許費…予算成立後の事由により、年度内にその支出を終わらない見込みのあるものについて翌年度に繰り越して使用することができる。

専決予算…議会が議決又は決定すべき事件について、法定事由に該当する場合及び議会の議決により委任された場合に、長が議会に代わってこれを処分することをいう。
専決処分をしたとき、長は次の議会でこれを報告し、その承認を求めなければならない。

平成20年度

決算

一般会計と特別会計合わせ

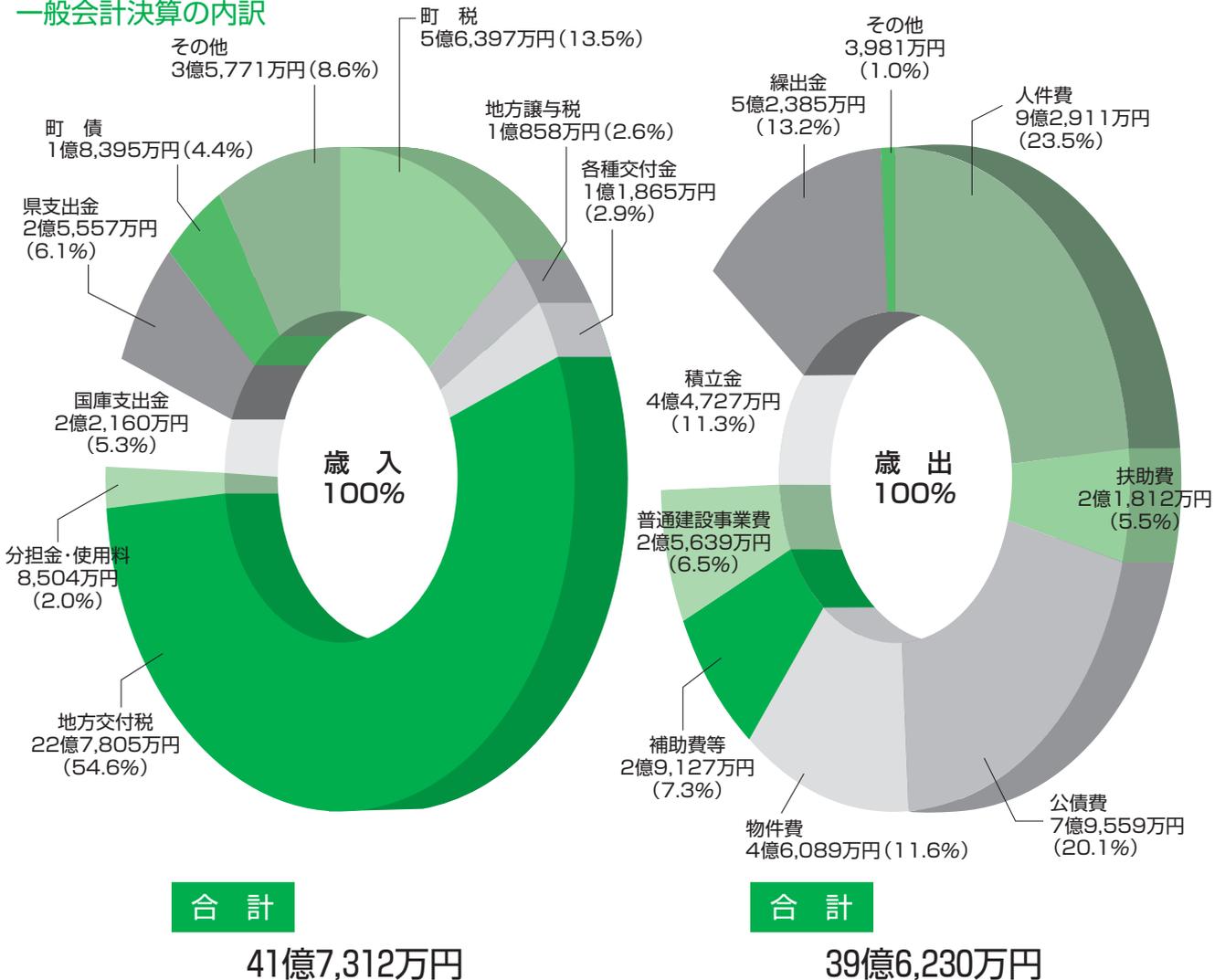
65億9,954万円を認定!!

平成 20年度決算状況

(単位：千円)

会計区分	一般会計	特別会計					計
		国民健康保険	簡易水道事業	老人保健	介護保険	後期高齢者医療	
歳入	4,173,122	1,074,159	216,157	128,772	909,335	98,003	6,599,548
歳出	3,983,581	1,014,211	142,661	128,772	885,777	97,104	6,252,106

一般会計決算の内訳



税の公平化と収納に努力を ～町税等 滞納総額 4,910万円

平成 20年度の財政状況

名 称	指 数	解 説
財 政 力 指 数	0.236	1 に近く 1 を超えるほど財源に余裕がある。
経 常 収 支 比 率	83.5	財政構造の弾力性を判断する指標で、75%程度に収まるのが妥当と考えられている。
公 債 費 比 率	10.6	一般財源に占める公債費の割合で、15%を下回るのが望ましい。
実 質 公 債 費 比 率	10.6	全ての事業の公債費比率で、18%以上は起債（借入金）に知事の許可が必要

20年度町税等未収金の状況

(単位：円)

区 分	未 収 額		前年度との比較	
	20 年 度	19 年 度	増 減 額	増 減 率 (%)
町 税	25,797,654	25,186,544	611,110	2.4
町 営 住 宅 使 用 料	1,907,400	2,422,600	△515,200	△21.3
国 民 健 康 保 険 税	20,623,960	22,515,400	△1,891,440	△8.4
簡 易 水 道 使 用 料	298,260	695,800	△397,540	△57.1
介 護 保 険 料	478,900	564,400	△85,500	△15.2
計	49,106,174	51,384,744	△2,278,570	△4.4

借り入れ金や積立金は総額いくらになっているか

地方債現在高 44億3,460万円

基金・積立金・預金残高

一 般	財 政 調 整 基 金	22億8,784万円
	減 債 基 金	9 億800万円
	そ の 他 特 定 目 的 基 金	12億1,007万円
国 保	財 政 調 整 基 金	2 億3,974万円
	そ の 他 の 基 金	500万円
水 道	基 金	1,728万円
介 護	給 付 費 準 備 基 金	1 億4,953万円
	介 護 従 事 者 処 遇 改 善 臨 時 特 例 基 金	558万円
計		48億2,302万円

平成20年度「一般会計」決算を認定(賛成多数) —安心安全なまちづくりの決算になったか—

決算額を前年と比較し(歳入)で増加は、国庫支出金の1億626万円92.1ポイント増とか地方交付税の9,355万円4.3ポイント増が上げられ、逆に、減少は町債4,950万円△21.2ポイント減、繰越金3,060万円△16.9ポイント減などとなっている。

(歳出)で増加は商工費で36.0ポイント増、教育費で6.2ポイント増、総務費で5.3ポイント増となっている。減少は災害復旧費87.5ポイント減、土木費14.8ポイント減などが上げられる。

歳出の面では、やむを得ず不用額の生じたものもあるが、監査委員が述べているように経費節減の意思は十分うかがえるが、当初の計画の分析等の見積もりの「あまさ」があると分析された。

財政では、実質公債費比率が、10.6ポイント(昨年9.6ポイント)で1.0ポイント上回っており、さらに効率的な財政運営に努力されるよう監査委員から指摘があった。

平成21年第2回臨時議会

第2回臨時議会は、平成21年7月28日に開催しました。

提出議案は、補正予算3件を審議しいずれも原案どおり可決しました。

補正予算

一般会計補正予算ならびに2特別会計補正予算が提案され総額で3億3,328万円が追加されました。

一般会計は、主に国庫支出金による地域活性化、経済危機対策臨時交付金による事業で国民健康保険特別会計は、保険税システム導入委託料、簡易水道事業特別会計は、下分簡易水道配水管布設替工事などとなっています。

補正予算

一般会計	38億7,550万円 (3億138万円)
国民健康保険特別会計	10億5,535万円 (1,260万円)
簡易水道事業特別会計	1億3,941万円 (1,930万円)

※上段は予算総額()内は補正額

主な内容

●旧庁舎解体撤去工事	1,950万円
●道路改良舗装工事	2,800万円
●第2寄井団地外壁等改修工事	3,390万円
●神山消防署施設設計委託料	1,100万円
●住宅用火災警報器購入費	1,300万円
●小中学校修繕等事業	5,000万円
●下分簡易水道配水管布設替工事	1,500万円

●神山町議会厚生文教常任委員会

会議に付した事件

一、神山町小中学校の耐震問題について

一、神山町内小中学校の統廃合について

開催日 9月2日(水) 午後1時28分～2時45分

場所 議員控室

出席議員 委員長 西崎 哲夫 副委員長 高橋 和男

委員 坂口 一之 委員 木元 史幸

理事者側出席者 町長 副町長 総務課長 教育長 教育次長

議会事務局 局長 書記

木元委員 耐震の問題、統廃合、学校体制についてどのような方針なのか。

町長 現状では理想型の答申であろう。推進していける状況ならば中学校の耐震化統廃合も推進しやすいだろう。神山東中のPTA会長から「推進する場合にはよく地元の意見を聞いた上で進めて下さい。」という意見書が出ている。

木元委員 耐震工事は四校全てするのか、また順番はどうするのか。

町長 危険度の高いところからしていく。広野小神山中が早い段階で進められるだろう。しかし父兄の不安は変わらないので、出来るだけ一緒に近い状態でやっていきたい。

木元委員 危険度について保護者に説明しているのか。

教育次長 校長に聞いてもらって、広野小神山中は危ないという認識はもってもらっている。保護者に関しては代表だけである。保護者にも共通の問題課題として知っていても遅くはない。

西崎委員長 答申を尊重したいということであるが、推進していくに当たり、議会を蚊帳の外に置かずに話に入れてもらってもいいのではないかと、100%答申を尊重するために諮問機関を設置したというのであれば我々には異議がある。進行や決定以前に問題について議員も蚊帳の中に入れてもらいたい。何か変化があった時には全員協議会等の場を持つ

てもらいたい。

町長 情報の共有ということで全員協議会等を開催していくよう考えたい。議会の皆さんと検討しながら進めていけるよう努力していきたい。

木元委員 耐震のこと、人口減少が続き先細りの考えをもって対応するのも必要であるが、子育て支援も充実しているし夢をもつというのも大事な施策である。医療無料化、学校教育の充実、学校体制をどうしていくかを理事者側は考えていく必要がある。これからは人口を増やしていくことが大事である。

町長 大事なのは神山教育の内容をどうするか、特色ある神山ならではの教育、地域に密着した神山の自然や文化体験をどれだけ出来るかというのが非常に大事である。どういった教育方針を打ち立てて文部科学省だけでなく神山の教育をどうするかという方針のもと優秀な教員を獲得して進めていくというのが一番大事でないかと思う。

西崎委員長 地域住民感情は無視出来ない統廃合の問題は慎重に対応してもらいたい。

高橋副委員長 これから生徒が段々と少なくなっていく、生徒が少なくなると神山町が駄目になっていく様な気がする。若者定住等まで考えていかないと学校問題は難しいのでは。

教育長 これから10年したら神山東中が廃校のおそれがある。このままいたら無条件で神山中へ統合になる、または両方がダウンするおそれがある。心配なのは小学校は神山でいてくれて中学校では残っていてくれるかどうか。

町長 生徒が今のまま何も施策展開しなかったら減るということは、はっきり数字が出ているのでいろいろな方法を講じて増やすことを考えないといけない。

坂口委員 小学校、中学校ともに一校にせざるを得ない場所は神領以外にない。

高橋副委員長 広野小は竣工年度が46年で1億9千万円要るが耐震しても心配ないのか。

教育次長 60年から65年が耐用年数なのでまだ20年位は大丈夫である。

副町長 統合や小中一貫校という理由がないと一校で新築するのは補助が通らない。

閉会

人形浄瑠璃 寄井座



人形浄瑠璃は、浄瑠璃(義太夫・三味線)に合わせて曲中人物に扮装した人形を操る、わが国固有の伝統人形劇です。

江戸時代中期に、今のよう三人遣いが考案され、以来三百年にわたって受け継がれ、多くの人々に愛されながら現在は貴重な財産となっています。

寄井座は、嘉永元(一八四八)年に神領村の有志によって作られ「上村都太夫座」として活動をしていましたが、現在は「寄井座」として活動しています。寄井座には、多くの頭や衣装が残されていますが、衣装の裏に当時の寄付者の名前が墨書されたものも多く残されており、地域の人々から幅広い支持を受けていたものと思われま。特に名人といわれた初代天狗久が作った頭が約四十個あり、又衣装も打掛けや陣羽織などに刺繍をほどこした立派なもの

が数多くあります。これらの頭や衣装

は座元の河口栄祐氏の蔵で保管されており、公演のある度に蔵から取り出して大切に使っています。それらの品々は貴重な文化財であり、作られて百年を経過した頭や衣装は良好な状態で大切に保管されており、今でも各公演で使用しております。頭のうち十四個は徳島県の「有形民俗文化財」に指定されており、うち十三個は初代天狗久の作になるものです。このように貴重な文化財を常時使用する寄井座の座員は、大きな誇りと責任の重さを全身で受けとめながら日々練習に取り組んでいます。

本年度、徳島県各地で阿波人形浄瑠璃をテーマにして「ジョールリー○○公演」が十月三日から一カ月間行われましたが、寄井座は十月四日の「第十二回全国人形芝居サミット」出演などで各地で七回の公演を行いました。最近では人形浄瑠璃芝居の公演が徳島市内や県内各地の農村舞台などで頻繁に行われています。次に寄井座の主な活動状況を列記してみます。

◎**毎年定期的に出演**
◆夏期阿波人形浄瑠璃大会
◆阿波人形浄瑠璃フェスティバル
◆天狗久まつり
◆小学校出前人形浄瑠璃
◆人形座が学校へ出向く
◆十郎兵衛屋敷出演
◆月平均三回
◆小野さくら野舞台定期公演
◆明王寺さくらまつり公演

◎**大きな行事等への参加など**
◆全国人形芝居サミット参加

◆神山木偶まつり開催

◆いにしへの風おつる慕情の共演 と きめきダンスカンパニー四国との共演

◆全国育樹祭での出演

◆NHKBS「お〜いにっぼん徳島」出演

◆国民文化祭への参加

◆オカリナ奏者「黒野宏道氏」とのコラボレーション

◆実録建治山御法之花復活

◆公演 徳島の作者による徳島独自の

外題を復活

◎**今後の課題**

座員は比較的高齢な座員が多く、若手の座員の加入が最大の課題となっています。長年にわたって受け継がれてきた寄井座独自の伝統の技や外題が途切れたり、上演出来なくなる恐れもあり、後継者の育成が急がれます。

又、現在上演している外題についても、練習を重ねることによって、より洗練された技として公演に備えることも大切ですし、今まで伝えられて練習した技についても更に工夫をすることも必要となつてきます。

「天狗久まつり」
生誕150年記念
国府町をパレード



神山の林業

取材を通して

今回は岡本悦男氏（下分字宇井）に神山の林業について取材した。岡本氏は徳島県森林組合連合会を経て神山森林組合、徳島中央森林組合に勤務され本年4月に退職されるまで、林業関係一筋森林組合運営にご尽力されました。物事は現実を目を反らさず直視することからはじまるといわれます。厳しい神山の林業の現状と課題を町民の皆さんと共有したい。



岡本 悦男
(下分字宇井)

神山木材共販所の販売状況

- 一 販売金額のピーク 平成五年 二七、八〇〇万円
- 二 販売材積のピーク 昭和六十年 一〇、六三五m³
- 三 平均単価のピーク 昭和五十四年 四三、二二八円

平成二十年度の販売状況

- 販売金額 五四、二二九千円
 - 販売材積 五、一九〇m³
 - 平均単価 一〇、四四八円
- 平均m³単価から市場手数料等が差引かれる。

神山町には建築用材として杉、檜、松がある。

木頭森林組合共販所は杉、美馬木材市場は松、神山共販所は杉、檜、松が出る共販所として特色があった。

松材 平成十年頃より建築様式変化に伴い上具としての松の

杉材

長尺材の使用が減少した。現在では松を購入する買手が減少し非常に売りにくくなっている。出荷も少ない。長尺の良質材でも一m³が一五、〇〇〇円程度。十五年ほど前までは大径材と小径材の価格差は大きかったが、現在ではほとんど変わらない。曲がり材は一m³が四、〇〇〇円〜五、〇〇〇円での取引

檜材

平成十年頃までは大径良質材は四〇万円を超えるものがあった。現在は一〇万円を越える檜はなかなか目にかからない。

木材価格の低迷は建築様式の変化が大きな原因と思われる。

一 木を表に出さないため良質材の需要が減少した。

二 木を表に出さないため、構造材としては集成材でも可能。

三 檜柱も三面無節、四面無節を必要とする家を建てる人が減少した。

四 若者は木造住宅の魅力に乏しい。

コンクリート、鉄、プラスチック

等の石油製品は限りある資源である。再生できる資源として木材を建築に多用すべし（植林が鹿に食われて再生も困難へ）

植えよ育てよとの国策で行った植林、林業の衰退は国策として救うべし。

市場へ出てくる木材の大部分は森林組合以外の事業者が搬出していたが、木材価格の低迷による転職と高齢化により事業者は減少。森林組合の搬出事業が主体。

価格が高値安定すれば林業者ができ、事業者も生まれる、森林所有者の後継者も山に対して関心が深まる。

植林しても鹿の餌となるため、皆伐はできない、間伐を繰り返す永久的間伐。

水資源確保の為だけでなく、先人が投資した森林から収入を確保することが大切。

下流域の人たちの水資源を守る林業はボランティアではできない。

三世代前に植えた木を収入にする、植林をすれば三世代後の収入につながる

希望が持てる林業でなければ、ますます森林に対する関心は薄まる。

一時は外材輸入が八〇%をこえていたが、やや減っている。外材輸入が五〇%程度になると、林業も活性化するのではなからうか。

需要に追いつく生産ができるかとの不安もある。

林業者は国土を守る公務員として、安定した生活ができる待遇も必要かもしれない。

(林野庁のようにならない対策も必要)

製材

町内には一三業者ある。ほとんどの製材は家族経営。収入が安定しないため後継者を別職種に就職させている業者も多く、今後も廃業は続く。戦争で消失した徳島市の復興を助けた、神山材の先は暗い。

高性能林業機械による搬出間伐

森林組合はプロセッサ スイングヤーダ フォワーダの三点セットによる搬出間伐を実施している(平成一六年から)。

現在二セットが稼働。一セットは神山町の事業を主体として稼働。

担い手として若者を確保するため

には機械化への移行は必要、加えて安定収入。

木材価格だけではペイできないが補助金があるため、赤字になった事業は皆無。

いくばくかの金は森林所有者へ戻っている。

現在四十五年生程度の森林が一番多い、高齢級への移行につれて機械の大型化も必要。

天然絞丸太

町内の篤林家が植林し、町内には五万本程度の本数があると言われる。

これも床の間を必要としない家が増え、売れないために手入れが遅れている。

多くの森林が床柱の適寸に育っている。

手が回る人は間伐をして大径木に育てようとする人もいる。

林業への補助金

補助金があるから間伐も徐々に進んでいるが、補助金が無くなれば間伐も進まない。

CO₂削減を理由として補助金を

増額に導くか、補助金でなく国費ですべて事業実施。

弱齢林の減少

皆伐が無いために苗木を植えない、町内には十年生未満の林地が非常に少ない。

苗木生産も過去には町内で活発であったが、生産をやめてから久しい。

県下の苗木生産者も非常に減少している。

弱齢林の減少により、下刈作業が無くなり、森林組合は夏場の作業確保が難。

町内の山は四十五年生の山を頂点としてピラミッドに分布しているが、このまま植林が無ければ、ピラミッドはいびつな形成となる。

間伐の必要性

林業において一番大切。

間伐せず放置しておけばもやし状態の山となり、草も生えず災害を誘発。

若木や道の無い山は切り捨て、三十年生を超えた山は森林組合に相談し搬出間伐が可能かどうか判断を願う。

小面積では採算に合わないので近隣を含めて大きな面積とする。

山の境界

木が安いため山に入らなくなった。それにより山の境界が不明確になっている。

神山町でも国土調査を復活して境界を明確にする必要がある。

上勝、木屋平では第三セクターにより国土調査が行われている。

境界を探すのではなく、山の存在を知らない若者も多いための早急実施。

「子や孫へ残す森林、まず間伐」



神山産材が積まれた小西製材(下分字左右山)

行政視察報告

平成二十一年度

神山町議会議員

行政視察研修

■ 第一日 長野県阿智村

若者定住促進の取り組みについて

平成二十一年七月二十九日から三十日、私達議員十二名と事務局二名



計十四名。第一日目長野県阿智村を視察研修して来ましたが、私なりに感じたことの一端を紹介したいと思います。

まず、阿智村とは長野県の最南端に位置し、飯田市に隣接する面積一七〇㎢（神山町一七三㎢）うち山林原野の占める割合九〇％（神山町八二・四％）、人口七、〇六六人（神山町六、七五二人）、高齢化率三一％（神山町四四％）又、村内を中央高速道が通り国原インターがあり、又旧国鉄の工事現場から温泉が湧出し、現在は温泉を中心に年間一三〇万人（神山町二〇万人）が訪れる観光業の町である。

最初に、村長より歓迎の挨拶があり、国県にたよらない自立の村をめざすべき農林業の振興、山村を守る事が日本を守る。又、住宅施策ではアパートより持家制度が持続性が高いと主張された。

我々の視察目的は、若者定住促進の取り組みについてであったが、その根幹をなすものが副村長曰く住民が本気にならないければ行政は何も出来ないとの前置きがあり、まず自治

組織の充実は取り組み十年が経過し、旧村単位で自治会が組織され、自治会（集落）の代表と役場が直接、対等平等な立場で取り組み、地庄計画（地域づくり計画）策定を行い、予算要求も自治組織が行っていること。又、別に自治会活動支援金も予算化され、実施されているとのこと。

本題の定住促進についてであるが、第一点目 新增改築支援金の支給であり

一つは若者（二〇～四〇歳）が対象、二つ目は集落定住者維持四一～五〇歳、但し（役場から一・五kmに高齢化率四〇％以上は年齢制限なし）又、村内事業者が請け負った場合二〇～五〇万上乘せする。

第二点目 一ターン受け入れ集落支援金一家族につき五万円を集落へ。

第三点目 分譲住宅地造成事業の実施

第四点目 二二〇戸の定住住宅の運営

第五点目 空き家情報及登録制度（賃貸、売却）又、賃貸に必要な費用の助成限度二〇万

第六点目 無料職業案内の開設、又、営農支援

第七点目 働く場所確保のため、工場用地の購入、造成、企業誘致の

実施

おおむね以上であるが、これらの施策を推進するため、定住支援センターを設置し取り組んでいる。

最後に担当者が云われた「地に足をつけてもらって住んで良かった町自分から発見する、再認識してもらおう、いずれにしても答えが仲々見えてこない」という言葉が印象に残っている。我々何度が視察研修に参加して来たが、大切なことは今後の活動に如何に生かすか、感動を忘れず持続するか、反省すること多しである。（議員 森 克一）

■ 第二日目 富山県舟橋村

人口を増やすための取り組みについて

平成二十一年七月三十日（休）富山県舟橋村において、「人口を増やすための取組について」を視察目的として、研修してきましたので報告します。

舟橋村は、富山平野のほぼ中心部に位置する県下唯一の村、そして都市近郊の村でもあり、日本一面積の小さな自治体でもある。

（面積三、四七㎢（縦・横それぞれ約二㎢））

また、平成十七年度の国勢調査で

は、人口増加率二十四、二%と全国第二位であり、村民の平均年齢が三十八歳と非常に若いのが特徴である。人口を増やすきっかけは、昭和四十五年八月「全村市街化調整区域」に指定され、土地開発禁止となり、昭和五十五年出生者の減少が続く一ケタになる出生者の異変に直面、そ



の影響で学校運営に支障、村勢の衰退に陥り、これらが起爆剤となり「市街化調整区域」除外運動を展開。除外運動から八年後の昭和六十三年九月除外となり、土地開発が可能となった。

平成元年から村営宅地造成を開始、坪単価平均六〜七万円で購入、近隣の富山市の坪単価より十万円程度安いことから売れ行き好調で、民間開発業者が続々と算入するようになり、人口が急増するようになった。

【舟橋村の人口等の推移】(各年4月1日現在)

区分	昭和62年	平成11年	平成15年	平成17年	平成19年	平成21年
人口	1,463	2,045	2,566	2,718	2,891	2,986
世帯数	350	588	803	862	933	966

その反面、人口が増加するにつれ、税金の滞納者が増加するなど新たな行政課題もできている。

神山町は、出生数の減少や転出の増加などによって高齢化率が加速しているため、早急な対応が必要である。住民と行政が、協力しながらまちづくりを進めていく体制の確立が求められる。(議員 森 彦富)



全国町村監査委員協議会主催による「第十九回町村監査委員全国研修会」が十月六日、七日の二日間、東京メルパルクホールで開催され、徳島県内の町村監査委員、事務局の四十一名と共に参加した。

一日目は、本年度より本格施行された「地方公共団体財政健全化法の全面施行」について、総務省自治財政局・神谷課長補佐より説明を受けた。

続いて「地域活性化の動向」と題して、農水省大臣官房政策課木村企

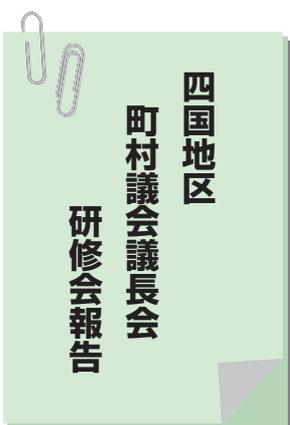
画官より、全国の事例を挙げて地方再生に向けた取組展開の在り方等の講義があった。

二日目は、公認会計士・池田昭義氏による「監査委員監査の仕方」について、具体的な監査実務の着眼点、及び財政・経営健全化審査の仕方から、同審査意見書の書き方に至るまで、中身の濃い充実した講義があった。

最後に、全国町村議会議長会議事調査部長・岡本光雄氏より、自治法改正の変遷と意義および、監査の現状と、これからの監査の方向等「町村監査の現状と課題」についての説明を頂いた。

今回の研修では、非常に盛りだくさんで、足早であったが、参考になることも多く、これからの監査に生かして行きたい。

(代表監査委員 田中 久博)



平成二十一年十月九日、松山市で開催された標記研修会に参加しまし



たので、そのとき感じたことを報告いたします。自治功労者の表彰に続いて台湾人の日本で永年在住の評論家金美齢女士による「強く美しい日本の未来に向けて」と題して講演があり、その中で彼女は日本は四季があり、緑豊かな世界で最も美しい国のひとつであり、人間が生きるため必要なきれいな「水」都会を少し離れると農山村のきれいな「空気を」、先人が作った「美田（農地）」がある。日本人は世界でも勤勉、正直、温厚で、優しく、思いやりがあり、親切な国民であると話された。

外国人であるので特にそのように感じたでしょう。彼女はこの強い美しい日本をいつまでも守っていくよう国民全員が努力していくべきだと述べられたことが心に残りました。神山町の美しい自然・人情豊かな

「人生は一度きり」

人生の時計は、
一度しかねじをまかない
その針がいつとまるか、おそくか、
それとも
もっと早くか、だれも知らない
今だけが私達の時間だ、明日がある
と思っはならない
なぜなら、その時人生の時計が
とまっているかもしれないから、
今を生きよ、愛せよ、神山
そして心に、汗をかいて
考えよう、見直そう、創ろう
住みよい神山を
今から自分達と子と孫のために



この町を守っていくためには未来の守り手である若い人の住める「まち」にすることが第一です。

町の再生活性化のため明日から努力するのでは遅い今から努力すべきです。
(議長 坂口 一之)

議会を傍聴

しませんか！

皆さんが選んだ代表が議場でどんな発言をしているのか自分の目と耳でお確かめ下さい。

どうぞお気軽にお越し下さい。

定例会は年4回（3月・6月・9月・12月）に開かれます。

日程・手続き等は議会事務局へお問い合わせください。

神山町議会事務局
TEL

676-1511

「TP2002」

次の定例会は

12月中旬です。

議会だよりの投稿を
募集しています。

身近かな「出来事」や「情報」など、お気軽にお寄せください。投稿は自由です。提出された投稿は、本委員会で協議検討し、承認を得たものとなります。

議会だよりの発行月は1月・5月・8月・11月の年4回を予定しています。

提出・問い合わせ先

神山町役場内 議会事務局

TEL 676-1511

IP 2002

Pick Up!

阿川宮分に遍路小屋完成

阿野字宮分の町道沿いに鳥をイメージした遍路小屋が完成した。海陽町出身で建築家の歌一洋近畿大学教授らの取組む「四国八十八ヶ所へんろ小屋プロジェクト」の一環で、あるき遍路さんの休憩所が四国で36番目が地元の貞政敏美さんが土地を提供し9月20日、もち投げや記念植樹をして完成を祝った。



“神山遍路小屋”落成

「神山観光」への経験的一考察



神山温泉支配人
和田 隆

私が(株)神山温泉に入社したのが、94年8月。ホテル四季の里が開業した翌年である。

早や16年の歳月が経ったわけだが、当初の頃は「神山」と言えば私自身、温泉のイメージしかなく、道路状況も悪く、正直この立地でホテル業が成り立つものなのか、不安要素が大変大きかった。当時は宿泊客の七割が徳島県内在住者。県外客といっても、神山出身、徳島県内出身者がほとんどで、観光客と呼べる方はほんの一握りであった。

■観光はナマ物。時代によって変わる。

98年の明石大橋開通を機に、関西圏の旅行会社に営業セールスに出たが、大橋効果のある内はまだしも、ブームが過ぎれば惨たんたるものとなった。

まず徳島が観光素通り県であり、神山の知名度はまったくゼロ。雨乞いの滝や阿川の梅など「自然豊か」であることをアピールしても、まったく響かない。さらに大型バスが近くまで行けない、となれば「大阪まで何しに来たの？」状態であった。

そこで方向転換し、八十八カ所巡拝客をターゲットに切り替えたわけだが、当時は宿坊、民宿に泊まれる方がほとんど。ホテルや旅館に泊まるのは極々限られた富裕層だけだった。それがNHKテレビや雑誌などに取り上げられるようになり、巡拝客の裾野が広がり、多様化し、今のような温泉や観光を兼ねたツアーが企画されるようになり現在に至っている。開業当初の頃には、ターゲットになりえなかった客層が、今は大きなマーケットになっている。同じ目的の旅行であっても、時代により大きく変わるといふ好例である。観光はナマ物と言えるだろう。

ちなみに今は、宿泊の県内客比率は35%。開業当初の頃と逆転した恰好になった。

■神山の「自然」の売り方

「神山は自然豊かであること」で売り出したらいい、という声もよく聞かれる。

しかしこれほど手垢のついた言葉もない。県内外問わず田舎は皆、自然豊か。自然のどの部分を、具体的にどうアピールしていくのか、その視点・見せ方が観光で一番重要だと思う。「自然」と一口で言っても、人それぞれいろんなイメージがある。

自然を求めて神山に来た、といわれる方は決して深山幽谷のイメージで来ているのではない。里山イメージ、プチ自然、ちょいウォーク。これが神山を訪れる方の自然イメージなのである。山に来たのだから虫がいるのは当たり前だが、それはNO。カブトムシはOKだが他はダメ。山登りなどのハードなものではなく、適度なウォークができる遊歩道を好まれる。極端に言えば、クーラーのかかった部屋で里山の景色を見て満足される。

季節の花めぐりの人気が高いのもそこにある。明王寺や国道沿いの桜、藤、梅、つつじなど、いずれも手軽に鑑賞できる立地にある。人形浄瑠璃、KAIR、滝なども同様。

「自然豊か」と大きな括弧で言ってしまうと、範囲を切り取り、県都・徳島市のもっとも近くにある「里山観光」という限定した表現で訴求し特化していった方が、魅力が伝わりやすく、これからの高齢化社会でも視野を広げていきやすい。

■「神山はいつも何かやっている」印象

神山観光の現況は、花、文化イメージなどが複合的に合わさって、総合力で魅力が打ち出せるようになった。好感度も高い。ただ日曜祝日に集中しており、平日との落差が大きい。平日対策が必要。「一日だけのビッグイベントよりも、一週間の小イベント」である。大小さまざまな企画、イベントは、マスコミ等に積極的に働きかけ、露出を図っていく。点より面で、とは観光振興によく言われるが、時間軸でも同様。「神山はいつも何かやっている」と印象づけることで平日でも神山に足を運びやすくする。

最後に、観光産業が発展することは、人が来ることであり、お金を落としてくれる機会を創出していくことでもある。

当社が取り組んでいる地産地消の活動も、神山旬感アイスクリームも、オリジナルの土産品開発も、地元食材を使うことで農業振興に貢献し、少しでもお金を落とせたいという目的ではじめたことである。

今後もこの方針は変えることなく、地域貢献にも微力ながらも尽力したい。

● 議会だよりにご投稿いただいた方々、ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。●

情 報 掲 示 板

円盤投げて
全国第5位!!



10月23日より横浜市で開催された陸上競技の第40回ジュニアオリンピックで、神山東中学校3年生の蔭山玖留美さんが女子共通円盤投いで5位入賞の輝かしい成績を上げた。

県大会で優勝し、日産スタジアムで30m43で、自己記録30m53にはおよばなかったが、堂々の入賞であった。小学生の時にはソフトボール投いで優勝したこともあり、実力を出し切った結果である。

卒業後、高校ではバレーボールを続けるか、陸上競技を目指すかと悩んでいる。

今後も悔いを残さぬよう全力を出し、立派な成績を後輩達のためにおさめてほしいものだ。

「輝かしい神山の星となれ」とエールを送りたい。

少し目標が小さいかな？

主要地方道神山鮎喰線
養瀬バイパス開通式に出席

10月22日養瀬トンネル西側入口付近にて開通式が挙行された。当日は天候にも恵まれて、飯泉知事をはじめ関係者多数の方々と神山町議会議員も全員が出席した。滝倉難所の解消という神山町民念願の式典を祝う機会を得たことに感謝する。

中でも三期目以上の議員は新童学寺トンネル新府能トンネルの開通式に加え養瀬トンネルと神山町の交通体系の変革機会の証人となり得た意義は大きい。

新しい交通体系の到来をこれからの町づくりにどう活かしていくのか町議会議員に課せられた責任は重い。

商圏の石井町への移行等々の課題もあるが、交流入口の増加等に期待出来る予想もある。

交通ネックの解消は良くも悪くも町を変えていくだろう。町議会としてもこれからの対応が試されるのではないだろうか。



表紙文字 稲飯幸生氏書(下分字令井)

大きな七夕飾りの前で笑顔が弾ける集合写真は、六月二十七日の地域住民総出による下分七夕まつり、準備の一コマである。下分地区は本年度高齢者率五〇%を越えた厳しい年齢構成の現実がある。しかし四季を通して多様な取り組みがある元気でまとまりのある地域である。

その原点となるのが下分七夕まつりである。孟宗竹一〇〇本余り、破竹三〇〇本余りを使う大がかりな仕掛が中山間地域の夏の夜に感動を呼ぶ。表紙写真の顔は作業に何等かのかかわりを持った方々の一部でしかないが一人一人の共働の笑顔が元気な地域を支える。下分地区まちづくり委員会は昨年十月人權劇「千の舞」の独自公演活動等々多様な取組みがなされている。

写真提供 (株)テレビ徳島



仁木島 昭さん (48歳)

1号目は大阪より、2号目は札幌からと遠くから神山に移り住まれてこられた方をご紹介致しました。

今回は隣町吉野川市鴨島町から神山に来られて3年目、ご家族と共に住まれて1年目になる仁木島 昭様(48歳)をご紹介致します。

ご職業はパソコン関係のお仕事をされ、システム開発、ホームページの制作をされ、日々ご多忙のご様子です。ご家族は奥様の由香里様(?歳)、長女 静香さん(16歳)の3人家族で現在「道の駅」の裏側で旧街道沿いにお住まいです。NPO法人、グリーンバレーの理事長の大南さんとのご縁でこちらに来られたとのこと。たまの休日にはボランティア活動にも積極的に参加され、地元の人々とのつながりを大切にされています。

仁木島さんとの取材中にも、話のはしばしに神山に対しての愛情、地域の発展性、希望がかいまみれました。この町の大ファンであることが伺えしれ、好印象を与えられました。

神山での暮らしぶりに聞いてみると、奥様が買物に少し不便を感じていらっしゃる様子、他にもあるのかも知れませんが……余りきくことはできませんでした。

これからも神山町のファンにより一層なっただくとともにメインとなって活躍してほしいものです。

最後にホームページの制作、パソコン等のご相談があれば、是非どうぞ。

編集後記

今を盛りと鳴く秋の虫達。人の体感、リズムに合っているのか、そう気にならない。

霞ヶ関、永田町では地方の再生、地域の活性化と大合唱するけれども、その実態、現実がどれ程理解されているのだろうか。

チェンジ、変化が大きな流れとなっている。新たな不安を生まなければと思っている。

中止、廃止、削減と時代が大きく変わるうとしていく社会のあり方が問われている。

私達も生活を「ゼロ」から見直す時代でもあると思う。

議会だよりには神山町内を写真等で紹介しています。この機会に訪れてはどうだろうか。まずは、足下を知ることから始めては。

(木元史幸議員)